目が覚めたっ!?
プリゲットの世界へようこそっ♪
私は、この世界の愛を司る妖精
「プリア」だよっ

きのこ平原
幻想の森
ボルカノ火山
ゴーストグレイブ
マーメイドビーチ
霧の洞窟
N
W
消えた孤島
深淵の海
ダンニスアイランド
メルヘンサイド
汚染区域
N
W
C
E
深淵の海
アンダーワールド
N
W
C
E
ここに来たって事は、
かなり【愛】に飢えていたんだねっ
…シクシク。
でも大丈夫だよっ!!
ここには【愛】に飢えている
お姫様がいっぱいっ♪

今日はそのブリゲットの中でも
ちょっと変わったお姫様を紹介
していくよ☆
普通の女じゃ満足できない！
っという人は是非チェックしてね☆

これからお姫様たちの
あーんな現場やこーんな現場を
一緒に見ていくんだけど
何だかのぞき見してるみたいで
ドキドキするね☆

でも安心して！
主人公はぜんぶ君だから！
時々人格が変わったりするけど
それは仕様だから
気にしないでね！

それじゃあ早速！
お姫様たちとのいろんな現場へ
れっつごー！！

人魚のミーミーちゃんを紹介するよ☆

名前：ミーミー
滅多に人に心を許さない人魚ちゃん。
しかし許すととことん懐く。
下半身を人間同様に変身することができるが、
長くは持たない。
普段は陸地に上がらないので変身する事もない。
よって処女である。
人魚の具合は最高ともっぱらの噂。
人魚なので人間の生活環境では、
生活費ががかってしまう
年齢：?
血液型：?
身長：160
体重：44
スリーサイズ?：
趣味：人間観察・歌うこと
イラスト：名瀬

ちゅ…、ジュプ…
ちょっとした冒険から帰った俺を
早速ミーミーが出迎えてくれた。
「ろう？きもひいい？」
ミーミーは亀頭を咥え
レロレロと舌を動かし
時に強く吸いながらながら
俺に訪ねてくる。
咥えながら喋るものだから
モゴモゴとした刺激がたまらない。
「クッソ気持ちいい…」
ミーミーの頭を撫でながら言うと
ミーミーはニッコリ笑って
更に深く咥え込んだ。
「ン…、んうぅ…、ッ、けほっ」

わずかに涙を浮かべながら
ミーミーは俺のアソコを
強く吸引する。
「ぐっ…！」
突然の射精感に俺は咄嗟に
ミーミーの頭を抑え
動きを静止させた。
「はー！、はー！」
動いていたミーミーのほうが
苦しいはずなのだが
息が荒いのは俺のほう。
滅茶苦茶気持ちいい。
が！出すならここじゃないだろう？
察したのか、ミーミー
はその姿を人に変え
恥ずかしそうにうつ向きながらも
おずおずと俺に足を差し出した。

スライムのメリアスちゃんを紹介するよ☆

名前：メリアス
スライム娘。スライムは主に人の姿を模し、
誘惑に乗った相手を捕食するため危険視され、
既に政府によりその殆どが駆除された。
幸いにもその難を逃れたメリアスは
人気のない山奥でひっそり生活している。
幼少の頃に駆除に遭ったため、
人を襲うことを教わっておらず、
実際に人を襲うこともない。
逆に、その経験から人を恐れる傾向がある。
年齢：？
血液型：不詳
身長：143
体重：42
スリーサイズ：B80-W53-H74
趣味：不詳
イラスト：るく

こ、これが気持ちいいんですよね？
恥ずかしいです…
ひゃあっ！すごい、こんなに沢山…

妖精のリュアちゃんを紹介するよ☆

名前：リュア･ツァメレント
身長20cm程の小さな森の妖精
少女の姿をしているが
そこそこ長い時を生きているらしい。
しかし性格は見た目相応に幼稚で悪戯好き。
人間の生活に憧れており、
自らも人間になりたいと思っている。
好奇心旺盛で行動力もある反面、
非常に飽きっぽい。
年齢：それなり
血液型：赤色
身長：ちっちゃい
体重：かるい
スリーサイズ：ミニマム
趣味：昼寝、悪戯、飛行
イラスト：kso

やっ…
ら、乱暴にしちゃやだ…！
んっ…あぅ
あ…んく…っ！…っ！
あぅぅ…擦っちゃ…だめだよぅ…！

妖精のプルチアちゃんを紹介するよ☆

名前：プルチア
水の精だと本人は名乗っているが、
実はあまり知られていない特殊な性の妖精さん。
カムフラージュの為に人間界における
水着を着用して何とか誤魔化している。
一族の存続の為に精気を集めに
人間界にやってきたものの、
元々彼女自身が大人しくて優しい性格である為に
中々、上手く進展しないのが悩み。
誰か彼女をリードしてくれる人間が見つかると
良いのだが……？
年齢：171
血液型：A
身長：16cm(人間換算：約160cm)
体重：4.5kg(人間換算：約45kg)
スリーサイズ：B7.7-W5.7-H8.0
(人間換算：B77-W57-H80)
趣味：陽だまりでのんびりする事
イラスト：うにーん

ん…ぷぁ…！
またネバネバしたのが
出てきました…。
これでもう３回目なのに、
また出ちゃいそうなんですか…？

チョコのショコラーナちゃんを紹介するよ☆

名前：ショコラーナ
バレンタインの時期に現れるという
不思議なチョコレート。
バレンタインの時期が終わると消えてしまう。
年齢：0 （2月2日製造）
血液型：？
身長：溶けるので不定
体重：溶けるので不定
スリーサイズ：溶けるので不定
趣味：食べられること
イラスト：乃ー

「また会えたわね！」
現れたショコラーナは言いながら
俺に抱きついてきた。
「バレンタイン(という名の発情期)
が近いからまたオトコノコを
探してたんだけど、
貴方のが忘れられなくて…」
言いながらショコラーナは俺の服を
剥ぎ早速息子に手をかけていた。

悪魔のアルストロメリアちゃんを紹介するよ

名前：アルストロメリア
この世界にある強い性欲に気付き
別次元からやってきた。
とても高貴な性格でプライドが高く、
男性に対しても非常に高圧的
アルストロメリアに気に入られたら
一滴も残らず
その性欲を搾り取られてしまうだろう。
年齢：328
血液型：判定不能
身長：178
体重：55
スリーサイズ：B92-W51-H87
趣味：欲望を満たすこと
イラスト：リリスラウダ

「妾を呼び出したのはお前か？
久々に強そうな人間に
呼び出されたものよの。」
呼び出された
魔物の女が俺を見下ろす。
「最近はどうにもくじ運が悪くての、
妾を呼び出すものはおっても
貧弱な若者やふにゃチンな
ジジイばかりで
退屈しておったのじゃ。
お主は若くて逞しい、下のほうも
さぞ美味なのであろうなあ」
「妾はアルストロメリア。
妾を呼んだからには
その精尽きるまで妾に
尽くしてもらおうぞ」

ゾンビのアメールちゃんを紹介するよ☆

名前：アメール
元王族と思われるアンデッド。
記憶は一切ないが何かしらの本能で
人間を襲っては欲を満たそうとする。
しかしながらそこはゾンビなので
満たされる事は中々なく、
果てても直ぐ立ち上がってくるので厄介。
防腐処理にお金がかかってしまう
年齢：？
血液型：？
身長：158
体重：47
スリーサイズ：B88-W53-H84
趣味：？
イラスト：ドク

「うぉっ!これ…
ほんとに死体の体かよっ…!」
「ええい、ままよ!」
とゾンビに愚息で格闘を挑んだ
俺だったが、あっさりと
勝負をつけられてしまった。
一体何度イかされたことか…。
男としてのプライドが音を立てて
崩れていくのが聞こえた。
初めて体験する死んだ体だが
中のひんやりとした感覚が
いかにも新鮮で心地いい。
そして通常の人よりおそらく力が
強いであろうゾンビは
その締め付けも凄まじかった。

出し入れしようと引き抜くが
圧倒的な力で締め返されて適わない
といった情けない状態である。
ドプッドプドプッ……
そんな状態だから出すときも全部中。
しょうがないだろ…
引き抜けねぇんだよ!
俺は悪くねえよ!
一方のゾンビはというと
中に出されるのが心地いいのか
一向に俺を離そうとする気配はない。
さすがの俺もいい加減に精巣が
空っぽになってきたので
そろそろリタイアしたいのだが
もし今俺が生かされているのが
「これ」が心地いいからだとすると
引き抜いたら殺されるかもしれない。

その思いが
俺の愚息をさらに奮い立たせ
精巣をフル稼働させる。
命かかってますから!?
俺がマジ空っぽになるのが先か
そっちが満足するのが先か!
このチキンレース、乗ってやるぜ!!

植物のカーネラちゃんを紹介するよ☆

名前：カーネラ
亜熱帯に生息している人によく似た食虫植物で、
体から出す甘い香りと粘液で
あらゆる生物を捕食する。
中でも人間の体液を特に好んでおり
数時間かけて栄養を吸収する。
意思の疎通もある程度は可能。
高額だが家庭で栽培出来る様品種改良された
ものも出回っている。
花言葉は"恥ずかしい妄想"
年齢：？
血液型：？
身長：142
体重：37
スリーサイズ：80-51-82
趣味：？
イラスト：ドク

カーネラの興味がだんだんと
体の中心に寄っていき
遂に俺の股間にたどり着いた。
カーネラはこれまで通り
対象をひとしきり舐め尽くした後
今度はそこに念入りに
粘液を擦り付けはじめる。
どうやらココが特別な箇所である
ことは心得ているようだ。
しゅるるるっ
と触手のようなツタが伸びてきて
器用に俺の股間を締め上げる。
カーネラの息使いは次第に荒くなり
心なしか体から溢れ出す
粘液にも変化が見られた。

これまで体を垂れ下がる程度には
水気を含んでいた粘液は濃度を増し
滴り落ちるのも億劫だと
言わんばかりにネバネバと
体にまとわりついている。
触れると糸を引くようにも
なったし、そもそも量からして
これまでとは段違いだった。
粘液の変化に伴い
捕食臭とも呼ばれるカーネラの
甘い香りが一段とキツくなり
他の動植物の侵入を
許さない空間が出来上がる。
どうやらカーネラも楽しみを
後に取っておくタイプだったようで
本気汁を漏らし始めた。

これからが本番というわけだ。
これまでの体の隅々を味わう行為は
彼女にとっての前戯だったらしい。
長らくお預けを食らっていた
俺の股間はようやっと
カーネラの中に入る許可を得たこと
を機敏に感じ取り、
そのサイズを増していた。

オートマタのテスラ150式ちゃんを紹介するよ☆

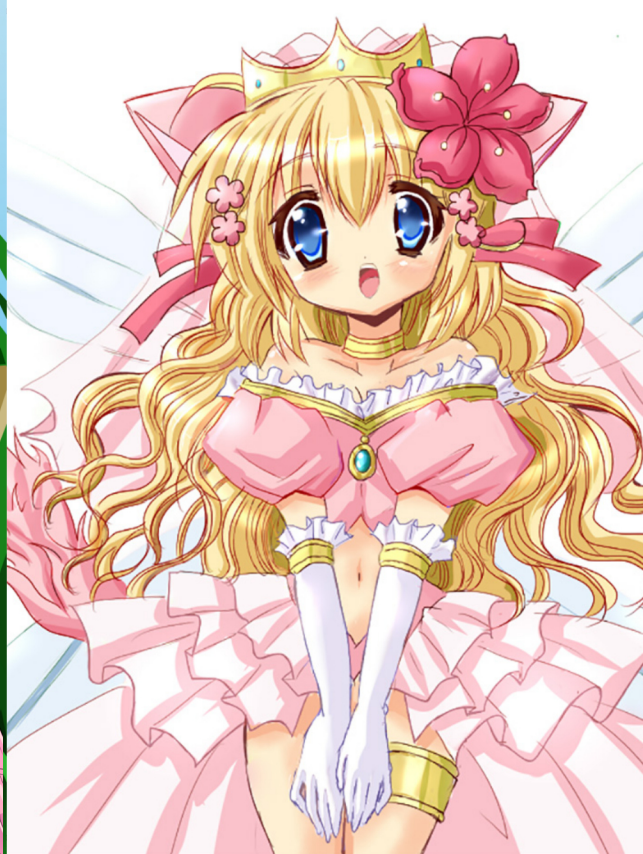
名前：テスラ150式
人と交わるために生まれた最新型オートマタ。
機械でありながら体液を分泌することも
可能になり感情も豊かになっているらしい。
ただし非常に重く、
取り扱いには注意が必要である
人に作られたというだけもあり、
誰に対してもご主人様という呼び方をする。
初めは非常に堅苦しい口調であるが、
次第に魔改造が進んでいき、変化していく。
感情によって目の色が変わる。
年齢：出荷3日目
血液型：電磁力
身長：140
体重：168
スリーサイズ：B62-W60-H65
趣味：拡張(プログラム的な意味で)
イラスト：リリスラウダ

「この度はわたくし
『セクサロイドオートマタ・テスラ』
をお迎えいただき
大変有難うございます」
ついに手に入れた。
セックス専用の最新型オートマタ。
鈴を転がすような声
少し冷たい感じのする眼差し……。
見た目は完全に人間の女の子だ。
清純で実直そうな表情や仕草まで
見事に作りこまれている。

この子をコレから
俺の好きな様に出来る……。
「ご主人様のどのような
ご要望にもお応えいたします」
ローションやバイブ等を
綺麗に並べながら
淡々と注意事項等を説明するテスラ。
グロテスクな器具類と清純な彼女の
姿はとてもアンバランスで
どこか背徳的な感じがした。
「これからどうぞ
よろしくお願い致します」
そう言ってテスラは
三つ指をつき、深々と頭を下げた。

妖精のアリアンナちゃんを紹介するよ☆

名前：アリアンナ
森の中の妖精の国のお姫様。
自然を愛する。
純粋で心優しい性格だが
その愛らしい美貌と妖精という希少さ故に
よく悪人達に狙われてしまう。
年齢：18
血液型：O
身長：148
体重：???
スリーサイズ：B84-W50-H87
趣味：お花集め
イラスト：佐藤黒音



俺は彼女をさらいに来た。
「そうなんですか、私、よく悪い人に
目をつけられるからてっきり…」
「ごめんなさい。お兄さんは
優しいお兄さんなんですね！」
噂通り、これまでさんざん狙われて
いながら未だに人を疑うことを
知らない。
とてとてと頼りない足つきで
こちらに寄ってくる妖精をやさしく
抱きしめ、頭を撫でてやる。
「あっ、そんな、
恥ずかしいです…///」
いいながらも目を閉じて
気持ちよさそうに撫でられている。

まるで聞き分けのいい
子供のようだったが
体はしっかり成熟されていて
童顔との組み合わせが
犯罪的に男たちを欲情させる。
プスッ
気持ちよさそうに撫でられていた
彼女は眠るように
俺に寄りかかった。
彼女の腰を支えていたほうの手に
隠し持っていた針を
彼女から引き抜く。
針の先からは
妖精によく効くという眠り薬。
薬はちゃんと効いたようだった。

ヤギ種のカプラちゃんを紹介するよ☆

名前：カプラ
ヤギ種の亜人。
ものすごく怠け者で大体家で寝ている。
情報屋を気まぐれに営んでいるが、
営業日は不定期。
きちんと依頼さえできれば
仕事は早く正確なので、
彼女を頼って家に訪れる人間も少なくない。
しかし本人が面倒くさがって基本は居留守をする。
一部の気を許した相手には鍵を渡して、
いつでも家に入れるようにしている。
何事にも慎重で腰が重いが、
親しい相手には羽目を外してしまうことも。
年齢：人で言うと27歳程度
血液型：B
身長：143
体重：35
スリーサイズ：？
趣味：寝ること、漫画を読むこと、インターネット
イラスト：飴

約束の時間になっても
起きてこないカプラさん。
怠け者で、眠る事が趣味。
寝過ごしてしまうなんて日常茶飯事。
こういう時のために預かっている
合鍵で部屋に入ると
案の定寝息を立てていた。
「ｚｚｚ……」
カーテンを開けて
カプラさんの布団を剥ぎとる。
太陽の日差しに照らされた
小柄な身体は、半裸だった。
「ううう…まぶしぃ〜…。
なんだよぉ〜こんな朝早くからぁ〜」
現時刻は午前11時半。
朝早いどころかもうすぐ昼だ。

ちなみに俺と会う約束を
していた時間は10時だった。
「うぅ…だってぇ…あたし…
いまさっき寝はじめたばっかりで
眠いんだよぉ…」
今日会う約束だったのになんで
徹夜しているんだろうこの人は…。
「インターネットで面白い漫画
見つけて、それ読み出したら
とまんなくてさぁ…」
だめだめすぎる…。
「やっとさっき全部読み終えたから
余韻に浸りつつこれから
寝るんだよ…」
眠気にとろけた表情で
夢と現実を行ったり来たり。
半分寝ながら
しゃべっているカプラさん。

「んー…。漫画ね、
すげー面白かったんだー。
キミにもあとで
アドレス教えてあげるねぇ…」
ベッドの上でもぞもぞと動く度に、
どんどん寝間着がはだけていく。
「約束は後でちゃんと守るから…。
お願いだから今は寝させてぇ〜…」
もう、こうなっては仕方がない。
無理やり起こしても
寝ぼけたままで使い物には
ならないだろうし…。
「キミも一緒に寝ようよぉ…。話は
寝ながら聞いてあげるからさぁ…」

キョンシーのコン・レイちゃんを紹介するよ☆

名前：コン・レイ
研究者が死体を繋ぎ合わせて作り出した
キョンシーの女の子。
棺に封印されていた。
人間の精をエネルギーにして動く。
年齢：不明
血液型：不明
身長：160
体重：53
スリーサイズ：B91-W58-H90
趣味：御札選び
イラスト：仁志田メガネ

その"屍体"は俺と目が合うと同時に
鋭い爪でこちらを攻撃してきた！
（殺られる！！）
すんでの所で身をかわすが体勢を
維持することが出来ずそのまま
倒れこんでしまう。
"屍体"は倒れた俺にまたがり、
そして、ズボンを引き裂いた。
そのまま何を思ったのか、"屍体"
らしからぬ豊満な乳を取り出し、
あっという間に俺のアレは"屍体"
の胸に挟み込まれてしまった。
暖かくはない。どちらかと言えば
冷たいが、むにゅむにゅと圧迫して
くる感触は間違いなく"乳"。

"屍体"はとてつもなく凶暴そうな
爪で丁寧に俺のアレを乳内に固定し
そのまま乳を上下左右に圧迫する。
(そういえばアンデットの中には
人の精液をエネルギーにするものが
いると聞いたことがある。
この行動から察するにおそらく
コイツも…)
頭は冷静だった。
だが、体はそうはいかない。
調査での1ヶ月、完全な禁欲生活を
送っていた俺にこの刺激は強すぎた。
久々の出番に下半身は血がたぎり
精巣は溜め込んだ精液を
全力で押し出してくる。
びゅるるる！！！！！！！

大量の精液が"屍体"の胸から噴水のように吹き出した。
そして"屍体"は満足そうにその精液を眺めていた。

悪魔のアスタナちゃんを紹介するよ☆

名前：アスタナ
活きのいい人間の精が大好きな悪魔娘
搾精能力において並のサキュバスを圧倒する
テクと魅力的な身体を持っている。
また、非常に小柄であるのに対し胸は豊満で、
一部のマニアには堪らない体型をしている。
大好物はやはりぷりぷりの精液らしい
年齢：???
血液型：???
身長：136
体重：32
スリーサイズ：B82-W46-H74
趣味：搾精
イラスト：BRLL

「すごぃ、まだ行けそう…」
特濃を2発出し終え半勃ちの
俺の股間をぎゅっと握り
恍惚の笑みを浮かべる悪魔。
「しおれちゃってると難しいけど
これなら…」
悪魔は「つぅーっ」と涎を垂らし
それを俺の股間に塗りこんだ。
ビキビキビキッ！
自分でも信じられない勢いで
股間が空を仰ぐ。
「やだもー、おっぱいそんなに
気に入っちゃった？」
反り立った股間は自然と悪魔の胸の
谷間に入っていった。
「でもダーメ、私、同じプレイは続け
たくないの。飽きちゃうでしょ？」

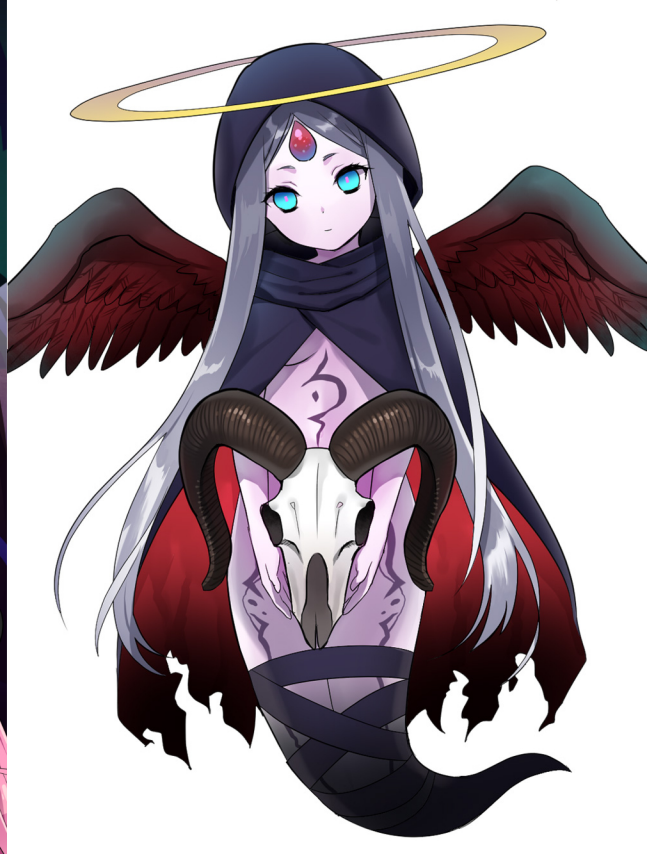
谷間に潜り込んでいた棒を
引き抜き、腰を上げる。
「ご・ほ・う・び♪こんなに
耐える人間はそうはいないのよ」
亀頭を悪魔の秘所にあてがい
ヌルヌルと入り口を
撫でる感触を楽しんでいるようだ。
「せー、の」
ズプッ！
悪魔は一気に腰を下ろし、
俺のソレを根本までくわえ込んだ。
「あ゛〜、いぃ…、深いのす゛きぃ…」
膣道のコリコリとした感触に加え
愛液も恐らく媚薬なのだろう
やはり焼けるように股間が熱い。
そして亀頭に伝わるズッシリとした
感触は恐らく彼女の臓器を
持ち上げているのだろう。

「んっ、動いてあげるねぇ…
貴方、動けないもんね」
悪魔がゆっくりと腰を上下する。
その度に今にも射精しそうな
快感がこみ上げてくる。
「はぁ、おっきすぎて、んぅ…
でも、慣れてきたかも…
早く動くから、何回でも出してね」
ズッ…ヌチュ…ズッ！ズッ！ズッ！
悪魔の動きが早まり
締め付けもきつくなる。
これは、とても耐えられない！！
ビュッ…
耐えていたが少し漏れてしまう。
それが最後。俺の股間は決壊し
ドバドバと精液を吐き出した。

ビュ！ドピュルルッ！
ブピュー！ブピュー！
悪魔は射精中も射精後も腰を止めてくれない。射精しながら絞り上げられまた射精してしまう。
何回でも出してね、
じゃない！ミイラにする気か！！
何度目かわからない射精を終え
俺は気を失った。

半魔のエタニアちゃんを紹介するよ☆

名前：エタニア
主人公の近所に住んでいた元気な少女だった。
趣味の魔術で偶然魔界への扉を開けてしまった
ことで強い魔界の風にあてられ身体は既に
魔物と化している。
今はまだ人の頃の記憶を維持し、
コミュニケーションを図ることもできるが
はたしていつまで持つだろうか…。
年齢：18
血液型：元O型
身長：153
体重：44
スリーサイズ：B78-W56-H77
趣味：黒魔術
イラスト：una



「オニイサン…」
魔物になったところで
俺とエタニアの気持ちに
変わりはなかった。
町の人気者から一転、忌み
恐れられる存在になってしまった
エタニアを連れだし、俺達は
遠い町で共に暮らすようになった。
そして今夜
二人は一線を越えようとしている。
人間と魔物。
人間同士の内にこうなりたかったと
後悔するのは彼女に失礼だろうか。

だが、魔物と化した上でも
彼女の裸体は俺の下半身を刺激する
のに充分過ぎるほど魅力的だった。
「ハイ…」
恥ずかしそうなエタニアの表情。
魔物と化したエタニアは
感情の殆どを表情に出すこと
がなくなっていたので
「恥ずかしそうな表情」
をしてくれるだけで泣きそうになる。
「挿れるよ…」
俺は、エタニアのソコ
にたぎる肉棒をあてがった。

ゴプッ！ドプドプ…
4度目の射精。
エタニアの小さな膣からは子宮から
溢れた精子がこぼれだし
俺の肉棒をドロドロと伝ってくる。
「オニイ、サン、スキ…」
「エタニア、まだ、いけるか…？」
「ウン…、モット…」
エタニアが俺の上に乗る。
「ンン…」
寝かして突いていた時には
届かなかったところまで
肉棒が深く埋まる。
子宮口を肉棒でえぐられるのが
気持ちいいのか、エタニアの膣が
キュンと締まった。

妖狐の珠音ちゃんを紹介するよ☆

名前：珠音
神社に住み着いている長生きの妖怪お狐様。
お花見とお酒が大好き。
困った事はあらあらで流してしまうが
甘い物が大好きなので体重を気にしている。
普段はおしとやかなお姉さん、
酔うと積極的になる。
年齢：100以上
血液型：A
身長：162
体重：56
スリーサイズ：B98-W58-H85
趣味：甘いものを食べる事とお酒を飲む事、料理
イラスト：una

依頼を受け、近所の山で散策を
していたところ、突然季節外れの
桜が舞い始めた。
そして、襲ってくる強烈な酒のにおい。
「あら〜、この神社に人間は
入れへんのやけど…、ヒック、
酔いで結界が緩んでたんやろか〜」
目の前で昼間から御機嫌に
酔い潰れている彼女。
名は珠音(たまね)というらしい。

「山にあるはずのない神社を
見たものがいる」
という調査の依頼の結論は
コイツの台詞で大体察しがついた。
「ふふ、坊やも飲めるクチでしょう？
一杯どう？」
おもむろに酒を差し出す珠音。
依頼の結論はもう出ているし
タダ酒を断る理由もないよな…？

森の仲良しさんを紹介するよ☆

名前：森の仲良しさん
蝙蝠のバットガール、芋虫のキャピたん、
わんこのポポリ、妖精ピンキーの
森の仲良し4匹組。
昼はバットガールを皆が守り
夜はバットガールが皆を守っている。
年齢：???
血液型：???
身長：???
体重：???
スリーサイズ：???
趣味：ままごと
イラスト：YaA

森の仲良しさんはもともと
敵として登場していたんだ。
きっと人間のやさしさに
気が付いたんだね☆

お腹をすかせたモンスター達が
ついてきてしまったのは、
まあいいとして…
「キャピた〜ん、ご飯だよ〜」
キャピたんが好む葉っぱで
つついてやると…
「あむっ」
見事に葉っぱに食いついた
キャピたんが釣れた。
キャピたんは上半身が人間に
似ているということで一部の
愛好家が好んで育成して
いるらしいがこうして観察して
みると確かに可愛い。

その上俺好みの小さな胸を
隠そうともしないものだからもう
何というか下半身によくない。
何度かついうっかりキャピたんに
手を出しそうになったが…。
しかしキャピたんには当然
人間の男を受け入れるような器官は
ないしそもそもサイズが違いすぎる。
「いや、だからこそ俺は
超えてはいけない一線を
超えないでいられるわけだ…」
キャピたんと致せないことを
前向きに捉え、
俺は自らの竿をシゴキはじめる。

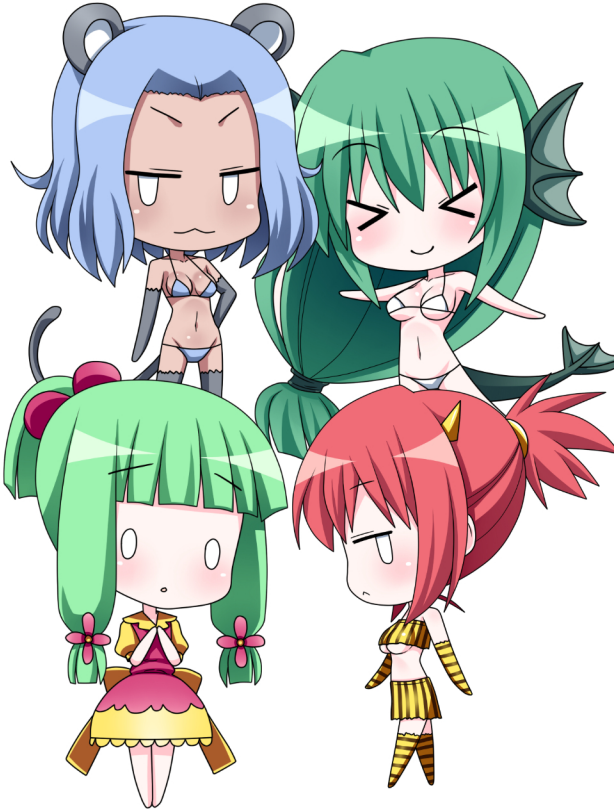
これでも充分一線を超えてきている
気がしなくもないが、
たまたま発射した先に虫がいた、
それだけ!ということにしておこう…
食事中で油断しているきゃぴたんの
胸にアレをセットする。
きゃぴたんが痛くないようちゃんと
優しくあてがうのが紳士のやり方だ。
先端にちっぱいが触れたことで
一気にこみ上げてくる射精感。
「かけるだけ!かけるだけだから!!」
ビュルルルッ!
俺はキャピたんに
特段濃いやつを発射した。

キャピたんは驚いたようだったが、
特に害がないと判断すると
また葉っぱをかじりだした。
どろどろの液体にまみれたまま
俺の特濃ミルクがかかった葉っぱを
かじるキャピたんを見ていると
またムラムラしてくる。
「え、栄養、あるしな…!」
俺は自分が段々危ない奴になって
いっているのではないかという
考えを不安を抱えながらも、
本能に逆らえずイソイソと
二発目の準備を始めたのだった。

モンスタープリンセスを紹介するよ☆

名前：モンスタープリンセス
下級モンスター達のお姫様達。
あまり強力ではない。
彼女らとの関係を進展させるには少し
条件が必要なようだ。
年齢：???
血液型：???
身長：???
体重：???
スリーサイズ：???
趣味：静かに暮らすこと
イラスト：名瀬

モンスタープリンセスは
もともと敵として
登場していたんだ。
でも、愛に目覚めたみたい！



討伐中の森でのキャンプは
今日で3日目。
ここは水場も近い割に凶暴な魔物が
訪れないキャンプには
もってこいの場所だった。
「今日も1日よく働いたし
歯磨いてションベンして寝っぺ」
歯を磨きながらいつもの場所へ赴く。
木陰に咲く一輪の赤い小さな花。
「栄養栄養」
カチャカチャ、チョロ…
俺はその花が何となく気に入って
しまいこうして栄養を与えるのが
日課になっていた。
「いやぁぁ…！」
ビクッ！
出しかけたモノが
引っ込んでしまった。

だ、誰かいるのか…？
「貴方ですね！わたしのお友達に毎日
汚い水をかけていモニョモニョ…」
最初は勢いがあったが徐々に
声が小さくなっていく。
一見人間のようにも見えるが
これは…アルラウネの一種のようだ。
「そ、その子は…最近毎日汚水を
かけられるって泣いてるんです！
やめてあげてくださモニョモニョ…」
「いや、栄養満点だし」
気にせず引っ込めたモノを
花に向ける。
「あぁぁぁ、だめですぅ！
その子は私の大事なお友達…
いじめないで…」
アルラウネが俺の足に飛びついた。

「わっ！バカ！変な方向飛ぶだろ！」
「生理現象なの！止めらんないの！
他の何にかければいいんだよ！
友達の代わりにお前が
受け止めてくれんの！？」
彼女を振り払いターゲットの花に
向き直る。
「ぇ…」
「できないだろ！口だけなんだよ
そういうの言う奴は！」
「ぁ…、ぁ…、
口だけじゃ、そんなこと…」
「ほら、花にかけるとこ
見せてあげるから！
栄養だぁ☆って喜ぶから！」
「ぃや！やめ……、うぅ…」
アルラウネは下を向き黙りこんで
からゆっくりと服を脱ぎ始めた。

「代わりに、わたしに…
かけていいで…す…から…
モニョモニョ」
「何だ、お前も栄養が
欲しかったのか〜、最初からそう
いえばいくらでもかけてやったぞ」
相手はアルラウネ
しかし見た目はほぼ人間。
大事な穴もちゃんとついていた。
植物相手とは言え、こうも
造形がしっかりしていると
下半身は反応してしまう。
「根っこなさそうだし、中に
入れたほうが栄養とれるよな！
勃ってると変な方飛ぶし
中で出したほうがいいよな」
ズプリと俺はアルラウネの穴に
肉棒を突っ込む。

「ひぃぃっ！」
心底嫌そうな悲鳴をあげているが
栄養剤打たれる子供も
大体こんな感じだ。
良薬口に苦し
栄養摂取は大変なんだ。
チョロロロロ〜
「ぃ、ぃやぁぁぁぁ……あづ…
きもちわる……うぅぅぅぅ……」
チョロ！ジョロロロロ-！
チョロチョロチョロ…
「ふ〜〜〜〜」
にゅぽっと抜き出すと折角注いだ
栄養が肉棒と一緒に
大量にこぼれだした。

「うぅ…えぐ…ふぇぇぇぇ…」
「あぁぁ、勿体無いからって
泣く事ないだろ！ほら、時間が
経てばまたあげるから！な！」
「ぅぅぅ…グスン…グスン…」
こうして俺は森のなかでの
トイレの確保、アルラウネは栄養の
確保という、お互いに利益のある
契約を交わすことになるのだった。